



## インフルエンザワクチンのススメ

マスコミが頻繁に新型インフルエンザワクチン不足や輸入ワクチンは危険なのではと、新型インフルエンザ関連のニュースを取り上げています。新型インフルエンザワクチンは、本当に効果があるのでしょうか？安全性に問題はないのでしょうか？

### 新型インフルエンザワクチンと従来のワクチンはどのように違いますか？

**A** インフルエンザにもいろいろな型があり、現在流行しているのはH1N1型ブタ由来の新しい型のインフルエンザです。新型インフルエンザワクチンは、このH1N1型ブタ由来インフルエンザのみを予防するワクチンです。従来型の季節性インフルエンザには予防効果はありません。従来のインフルエンザワクチンは、過去に流行し今年も流行が予想される何種類かの型の季節性インフルエンザを予防するものです。どちらも予防しようとする両方接種の方がよいでしょう。新型インフルエンザワクチンは供給量不足のため、まず季節性インフルエンザワクチンを早い時期に接種し、新型インフルエンザワクチンが打てるようになれば1月以降接種してもらおうのがよいでしょう。

### 新型インフルエンザワクチンを接種すると新型インフルエンザにかからないのですか？

**A** いいえ、新型インフルエンザワクチンを接種したからといって感染を完全に防ぐことはできません。ただし、ワクチンを接種した人は新型インフルエンザに対する免疫ができます。従って、重症化しやすい喘息など呼吸器疾患、重度の心臓病、腎不全などの病気をもっておられる方、妊婦を最優先にワクチン接種することになっています。逆に健常人は重症化することは稀のため、欧米では感染してから治療すればよいという考えの市民も大勢います。

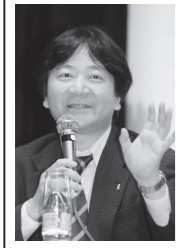
### ワクチン接種はどのように実施されますか？費用はいくらかかりますか？

**A** 11月から最優先患者(国指定の最優先の病気のある方と妊婦)に接種を開始します。12月以降、基礎疾患のある優先患者、幼児、小学校低学年と接種を開始します。年明けに順次、1歳未満児の保護者、小学校高学年、中学・高校生、高齢者の順に接種していきます。このワクチンは任意接種のため、個々が医療機関で接種希望を申し出て予約した上で接種します。費用は一人あたり2回接種分で6150円の予定です。最優先患者と妊婦は国産ワクチンを用いますが、1月以降は輸入ワクチンが用いられる見込みです。また、ワクチンは原則1回で十分とされていますが、2回接種の方が確実に免疫ができるため、免疫低下患者と若年者は2回接種をお勧めします。

### 国産ワクチンと輸入ワクチンに違いはありますか？

**A** 国産と輸入では製造法に違いがあります。国産は鶏卵の卵黄を用いて製造するので製造量に限りがありますが、添加物が用いられておらず従来のワクチンも含めて安全性の面からすべて国産が用いられてきました。輸入品は、免疫効果を増強するための添加物が用いられており、日本では今まで輸入ワクチンを用いられたことがなかったため副作用を危惧する意見もあります。一般的には、ワクチンによる重篤な(生命を脅かす)副作用は0.001~0.0001%と言われており、新型インフルエンザの死亡率0.1-0.5%に比べて極めて低くなっています。

## 今月のドクター



岐阜市民病院 呼吸器科・呼吸器腫瘍内科部長 澤 祥幸氏 (さわ としゆき)

昭和59年岐阜大学医学部卒。大阪府立羽曳野病院(現呼吸器アレルギーセンター)を経て岐阜市民病院呼吸器科部長。専門は肺がんの集学的治療。日本初のがん薬療法専門医。